

天空の芸術祭

2027

リサーチプログラム

あなたの話を聴かせてください

2

ささやかな話、たしかな音

●このワークショップでは、美術家・土屋貴哉、臨床心理学者・村久保雅孝、音楽療法士・田口友美が協働し、参加者のみなさんと共に対話を紡ぐ場をひらきます。●能動でも受動でもない、なりゆくようになっていく「中動態」の哲学チックな視点と、未来から今を語る「アンティシペーション・ダイアログ」を交差させ、ことば・音・身体の感覚などを通して、みなさんそれぞれの内にある物語を静かにあたたかく味わってみましょう。●そこで交わされる声や響きは、記録や痕跡として「かたち」を得、いつの日かインスタレーション作品など、さまざまな芸術表現へと生まれ変わるかもしれません。●ふだんの生活で気になりつつも立ち止まることのない「東御と自分のあいだの風景」にとどまり、語り合う時間。●あなたの話を聴かせてください。

● あなたの話を聴かせてください | 2 | — ささやかな話、たしかな音



左記フォーム、または電話にて要事前予約。TEL: 0268-71-0670
フォームでの受付は9月15日（火）まで。以降はお電話で予約を承ります。
（天空の芸術祭事務局 || 東御市 文化・スポーツ振興課文化振興係）
https://apply.e-tumo.jp/city-tomi-nagano-u/offer/offerList_detail?tempSeq=76237

あなたの中にある東御をたぐる

「なぜ」ではなく「どんな風に」——それはとても個人的な経験に基づき、あなたに濃く染み込まれた感覚的で主観的なことから。それは他人にはとるに足らないことかもしれない。けれど、それを思うと頬が緩むような、或いはちょっとだけセンチメンタルなような、或いは強迫観念のような、または傷のようなものかもしれません。あなたの中で育まれた東御を、ちょっと変わった「未来の視点」からゆったりと引き寄せ、再び自分の中にとどめ直してみましょう。この試みは、東御とあなたの関係を改めて見つめ直す機会になるかもしれません。

ワークショップ取り組み内容

あなたの言葉・あなたの音を味わいながら手繰り寄せる。観賞・対話・音楽、この3つのアプローチを通して進めます。

〈観賞〉=導入として、土屋の文字による作品《固有名を持たぬ者たち》を観賞し、本WSの出発点とします。

〈対話〉=参加者同士の対話に加え、「1年後の未来」を想像し、そこでのあなた自身との対話を試みます。

〈音楽〉=対話から手繰られた感覚や感情の揺らぎをもとに、じっくりくる「音」を探し、そして奏でてみます。

専門的な知識や経験は必要ありません。熟練の技術や能力も必要ありません、ですから失敗もありません。みなさんが手繰り寄せた言葉や音が重なり合ったとき、思いもしなかった「東御」が姿を現すかもしれません。

[ファシリテーター] 土屋貴哉(美術家)
村久保雅孝(臨床心理学者)
田口友美(認定音楽療法士)

[日時] 2026年9月23日(水)
14:00-17:00

[会場] 梅野記念絵画館・ふれあい館
ホール

[定員] 12人 ※定員を超えたら抽選

[対象] 現在または過去において、
東御市にゆかりのある方。
高校生以上。

[参加料] 無料

[使用言語] 日本語

[備考] 昨年参加された方も大歓迎です。
去年とは少し違った「東御」に出会えるかもしれません。

ファシリテーター略歴

土屋貴哉(つちや・たかよし)
1974年、東京都生まれ。美術家。佐賀大学芸術地域デザイン学部教授。90年代より、日常を支えるシステムや物にシンプルな方法で介入し、知覚に揺さぶりを起こす作品を多様な媒体・形式にわたり発表している。「響きあうアート——美の拡がり、美術の拡がり——」(佐賀大学美術館、2023年)から、村久保雅孝との協働WSも行っている。近年の主な展示に、「ささやかな話、確かなこと」(太田市美術館・図書館、2024-25年)、「KAATアトリウム映像プロジェクトvol.24, 25 土屋貴哉」(神奈川芸術劇場、2023年)、「ちくごアートファーム 計画2020 旅と恋愛」(九州芸文館、2020年)、「1974年二生マレテ」(群馬県立近代美術館、2014年)、「国際メディアアート展 FILE SP」(Contro Cultural FIRSP、サンパウロ、2014年)。

村久保雅孝(むらくぼ・まさたか)
1959年、熊本県生まれの福岡育ち。日本心身医学協会評議員。元佐賀大学医学部准教授(2025年3月退官)。専門は臨床心理学。臨床心理士であり公認心理師でもある。実践や研究では、その人の目線や体験を拠り所としている。主観の世界や個々の物語を重視しており、「なぜ」を問うことより「どのように」というところに関心を向け取り組んでいる。「響きあうアート——美の拡がり、美術の拡がり——」を機に、土屋貴哉に遭遇。『パーソンセンタード・アプローチの挑戦 現代を生きるエンカウンターの実際』(創元社、2011年)を編著。『パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアローグ——対話・つながり・共に生きる』(遠見書房、2023年)、『エンカウンター・グループの新展開』(木立の文庫、2020年)等分担執筆多数。

田口友美(たぐち・ともみ)
音楽療法士。佐賀大学医学部助教。佐賀県出身。中学校および特別支援学校の音楽教員を経て、音楽療法に興味を持ち、医学部へ進学。その後、保健師として地域の健康支援に携わる。現在は、認定音楽療法士・公認心理師・保健師(公衆衛生)の3つの専門性を融合させ、実践と研究を展開している。研究面では、音楽心理学を基盤に、コミュニティ音楽療法や心身と音楽の関係性について探究。現在、大学や地域サロンをはじめ、障害者施設・介護施設、病院や失語症サロン、医療職者など多岐の領域で音楽療法を実践している。また、佐賀県音楽療法士会の会長を務め、地域における音楽療法の普及と発展にも取り組んでいる。

リサーチプログラム

関連企画

ワークショップ

事前予約制

あなたの話を聴かせてください

2

ささやかな話、たしかかな音

天空の芸術祭

2027

東京藝術大学と東御市による域学連携事業

リサーチプログラム

●このワークショップでは、美術家・土屋貴哉、臨床心理学者・村久保雅孝、音楽療法士・田口友美が協働し、参加者のみなさんと共に対話を紡ぐ場をひらきます。●能動でも受動でもない、なりゆくようになっていく「中動態」の哲学チックな視点と、未来から今を語る「アンティシペーション・ダイアログ」を交差させ、ことば・音・身体の感覚などを通して、みなさんそれぞれの内にある物語を静かにあたたかく味わってみましょう。●そこで交わされる声や響きは、記録や痕跡として「かたち」を得、いつの日かインスタレーション作品など、さまざまな芸術表現へと生まれ変わるかもしれません。●ふだんの生活で気になりつつも立ち止まることのない「東御と自分のあいだの風景」にとどまり、語り合う時間。●あなたの話を聴かせてください。

● あなたの話を聴かせてください | 2 | —— ささやかな話、たしかな音



左記フォーム、または電話にて要事前予約。TEL: 0268-71-0670
フォームでの受付は9月15日(火)まで。以降はお電話で予約を承ります。
(天空の芸術祭事務局 || 東御市 文化・スポーツ振興課文化振興係)
https://apply.e-tumo.jp/city-tomi-nagano-u/offer/offerList_detail?tempSeq=76237

あなたの中にある東御をたぐる

「なぜ」ではなく「どんな風に」——

それはとても個人的な経験に基づき、あなたに濃く染み込まれた感覚的で主観的なことから。それは他人にはとるに足らないことかもしれない。けれど、それを思うと頬が緩むような、或いはちょっとだけセンチメンタルなような、或いは強迫観念のような、または傷のようなものかもしれません。

あなたの中で育まれた東御を、ちょっと変わった「未来の視点」からゆったりと引き寄せ、再び自分の中にとどめ直してみましょう。

この試みは、東御とあなたの関係を改めて見つめ直す機会になるかもしれません。

ワークショップ取り組み内容

あなたの言葉・あなたの音を味わいながら手繰り寄せる。観賞・対話・音楽、この3つのアプローチを通して進めます。

〈観賞〉＝導入として、土屋の文字による作品《固有名を持たぬ者たち》を観賞し、本WSの出発点とします。

〈対話〉＝参加者同士の対話に加え、「1年後の未来」を想像し、そこでのあなた自身との対話を試みます。

〈音楽〉＝対話から手繰られた感覚や感情の揺らぎをもとに、じっくりくる「音」を探し、そして奏でてみます。

専門的な知識や経験は必要ありません。熟練の技術や能力も必要ありません、ですから失敗もありません。みなさんが手繰り寄せた言葉や音が重なり合ったとき、思いもしなかった「東御」が姿を現すかもしれません。

開催概要

〔ファシリテーター〕	土屋貴哉（美術家） 村久保雅孝（臨床心理学者） 田口友美（認定音楽療法士）
〔日時〕	2026年9月23日（水） 14:00–17:00
〔会場〕	梅野記念絵画館・ふれあい館 ホール
〔定員〕	12人 ※定員を超えたら抽選
〔対象〕	現在または過去において、 東御市にゆかりのある方。 高校生以上。
〔参加料〕	無料
〔使用言語〕	日本語
〔備考〕	昨年参加された方も大歓迎です。 去年とは少し違った「東御」に 出会えるかもしれません。

ファシリテーター略歴

- 土屋貴哉（つちや・たかよし）
1974年、東京都生まれ。美術家。佐賀大学芸術地域デザイン学部教授。90年代より、日常を支えるシステムや物にシンプルな方法で介入し、知覚に揺さぶりを起こす作品を多様な媒体・形式にわたり発表している。「響きあうアート——美の拡がり、美術の拡がり——」（佐賀大学美術館、2023年）から、村久保雅孝との協働WSも行っている。近年の主な展示に、「ささやかな話、確かなこと」（太田市美術館・図書館、2024-25年）、「KAATアトリウム映像プロジェクトvol.24, 25 土屋貴哉」（神奈川芸術劇場、2023年）、「ちくごアートファーム計画2020 旅と恋愛」（九州芸文館、2020年）、「1974年ニ生マレテ」（群馬県立近代美術館、2014年）、「国際メディアアート展 FILE SP」（Contro Cultural FIRSP、サンパウロ、2014年）。
- 村久保雅孝（むらくぼ・まさたか）
1959年、熊本県生まれの福岡育ち。日本心身医学協会評議員。元佐賀大学医学部准教授（2025年3月退官）。専門は臨床心理学。臨床心理士であり公認心理師でもある。実践や研究では、その人の目線や体験を拠り所にしている。主観の世界や個々の物語を重視しており、「なぜ」を問うことより「どのように」というところに関心を向け取り組んでいる。「響きあうアート——美の拡がり、美術の拡がり——」を機に、土屋貴哉に遭遇。『パーソンセンタード・アプローチの挑戦 現代を生きるエンカウンターの実際』（創元社、2011年）を編著。『パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ——対話・つながり・共に生きる』（遠見書房、2023年）、『エンカウンター・グルーヴの新展開』（木立の文庫、2020年）等分担執筆多数。
- 田口友美（たぐち・ともみ）
音楽療法士。佐賀大学医学部助教。佐賀県出身。中学校および特別支援学校の音楽教員を経て、音楽療法に興味を持ち、医学部へ進学。その後、保健師として地域の健康支援に携わる。現在は、認定音楽療法士・公認心理師・保健師（公衆衛生）の3つの専門性を融合させ、実践と研究を展開している。研究面では、音楽心理学を基盤に、コミュニティ音楽療法や心身と音楽の関係性について探究。現在、大学や地域サロンをはじめ、障害者施設・介護施設、病院や失語症サロン、医療職者など多岐の領域で音楽療法を実践している。また、佐賀県音楽療法士会の会長を務め、地域における音楽療法の普及と発展にも取り組んでいる。